



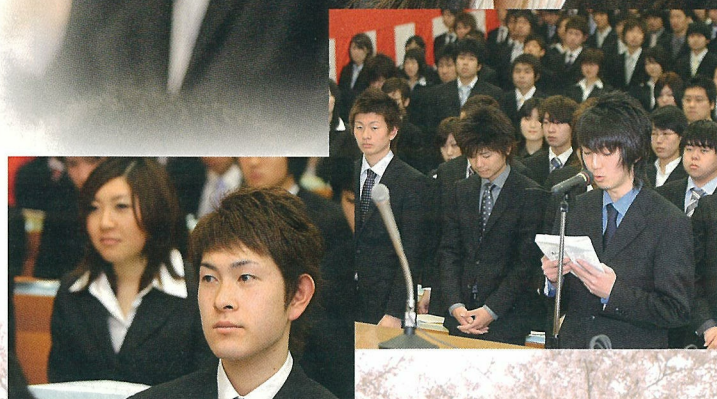
| 平成18年度入学生 おめでとう |

自らの価値観と責任を持って
学び楽しめキャンパスライフ

平成18年度の入学式が4月5日、本校大講義室で行われました。第13回の入学生は情報文化学科128人、情報システム学科191人の合わせて319人。希望に胸を膨らませ、みずき野キャンパスでの学生生活がスタートしました。

武藤輝一学長が「国際化・情報化の社会に役立つ語学・文化と情報技術の理論と実践を学び、自らの価値観と責任を持って有意義で、楽しい学生生活を謳歌してください」と祝辞を贈りました。また、在校生を代表して情報文化学科の斉藤巧一さんが「この大学には皆さんが期待している先進分野の研究、尊敬できる師と信頼しあえる友人との出会いのすべてがあります。明るく楽しいキャンパスライフを楽しんでください」と歓迎の言葉を述べました。

これに対して新入生を代表して情報システム学科の山田正彦さんは「積極的に学び自分の可能性を見出し、有意義な学生生活が送れるよう励みます」と力強く抱負を述べ、教職員、先輩らから激励の拍手を受けました。



CONTENTS

2・3面

入学式特集
新入生の抱負
湧源（広報委員長）

4・5面

17年度就職情報一覧
学内合同企業説明会
トピックス・水保シンポ
市岡教授追悼・さよならイチー

6・7面

今年度の新体制スタート
学部長など挨拶
委員長紹介・人事
新任教員紹介
退任教員挨拶

8面

進路ガイダンス・オープンキャンパス案内
平成19年度入試概要

9～12面

卒業式特集・スナップ
思い出と言・特別表彰

平成18年度

第13回

入学式

学長告辞

強い向学心を持ち
有意義な4年間に



新潟国際情報大学学長
武藤 輝一

新入生の皆さん、ご入学おめでとう。

このたびの入学は皆さん自身にとつての喜びであることは申すまでもありませんが、本日ご列席くださいましたご親族の皆さまも大変お喜びのことと存じております。また多数の元氣凜冽として前途有為な皆さんを迎えることができます我が大学にとりまして大変な喜びであります。

このたび、本学に入学された皆さんは、情報文化学科128人、情報システム学科191人、合わせて319人です。

本学の開学は比較的新しく平成6年の春でありました。しかし、既に開学後満12年を経過し、本年3月までに2657名の卒業生が社会へと巣立って行き、大いに活躍中であります。本学創立の理念は、我が国の社会、文化についての認識と理解を基礎に、国際化、情報化の社会の中で役立ち、能力があり、意欲あり、人間性豊かな人物を育成することにあります。

情報文化学科では実用英語を習得すると

もに、これとは別に英語、中国語、韓国語、ロシア語の4カ国語のうちのいずれか1カ国語を学び、一方、我が国の社会・文化と対比しつつ外国の社会・文化を学び、社会のために貢献しうる人物を育成することを目指しております。

情報システム学科では英語の習得とともに、世界中に広く構築された情報技術および情報システムの理論と実際を学び、同時に例えば、経営および地域情報システム、財務および管理会計、マルチメディア情報処理など、情報システムの社会での応用を学び、その知識と技術によって社会の発展に寄与しうる人物を育成することを目指しております。

また両学科にわたり、基礎科目、共通科目を通して教養教育にも心掛けています。本学における教育、研究の目的とするところをご理解いただければ幸いです。

最近では小、中、高等学校の教育の中でも、生徒自身の自主性を高めるべく教育が行われていますが、皆さんは大学卒業後、思慮分別のある一社会人とみなされ活動することになります。自分で考え、自分で生きて行かなければなりません。他人の意見にも耳を傾け、周辺の状況を冷静に見極めることは申すまでもありませんが、何事にも、自らの意志を持ち、自ら発言・実行し、自らの価値観を持ち、そして自らの発言・行動に責任を持つことが大切であります。学生時代にこの習慣をしっかりと身に付けてほしいのであります。もちろん人間社会の秩序を守るため、ある程度、個人の自由には制限がありますが、無為に流れに身を任せて生きるのではなく、これからの学生生活の一日一日を大切に、有意義に過ごすことを心掛けてください。過ぎた日は悔いとも再び戻ることはないのであります。

いよいよ今日から新潟国際情報大学での学生生活が始まります。うれしいことや楽しいこともたくさんあるでしょうが、時には思い悩むことや悲しいことにも遭遇し、あるいは失敗することもあるでしょう。しかし成功よりも、まれに遭遇する失敗はその後の人生の大切な糧となり、その人の人間性に味と深みを与えることとなります。皆さんは若いのです。失敗に怯まず、これを乗り越え、先へ進んでください。

ご存知の通り、国内総生産も最近では上昇傾向にあり、太学卒業生の就職率も良好であり、大変うれしく思っております。大学におきましては、皆さんが卒業後、それぞれに適した職業が選択できるようにと、2年次の後期から3年次の前期にかけてキャリア開発教育が、3年次の夏期休暇中にインターンシップが行われます。また3年次後期には就職希望調査が行われます。従って平素自分自身をよく認識、分析し、自分の長所、短所を知って、長

歓迎の言葉

学問、師、友達と
素晴らしい出会いを



在学生代表 情報文化学科
齊藤 巧一

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございませう。またご臨席いただきました多数のご父母の皆さま、おめでとうございませう。皆さんの入学を在学生一同、心より歓迎いたします。本学は「情報社会を先導し、また国・地域そして文化の違いを尊重し、国や地域を越え

所は伸ばすように、短所はなくするよう努力する一方で、この頃には卒業後どんな職業につきたいか、何をやりたいか大よそ決めておくことが必要です。もちろん大学院への進学もお勧めします。遠慮なく私ども教職員に相談してください。

昨年12月から本年3月半ばまで例年になく寒さが続き、新潟県内の降雪は異常に多く昭和38年以来聞かれなかった「豪雪」の名称がつけました。そして今寒かった冬も去り、本学の桜並木にもまさに花が咲こうとしています。若い皆さんの新入生の皆さんを迎えることができる喜びのあまり、皆さんの希望を申し上げることになってしまいました。皆さんが強い向学心をもって勉学に勤しむとともに、学生生活を謳歌し、人間性豊かで温かい心を持った社会人に成長されますことを心から期待し、皆さんを迎える言葉と致します。

て人類の共存・共生に貢献する」という教育理念のもと、学生は学問、部活動、サークル活動に積極的に参加し充実した大学生活を送っています。

皆さんは今日から大学生としての新たな生活を迎え、不安や緊張も多いかと思えます。また期待に胸膨らませている方もいるでしょう。3年前の今日、私も今、皆さんが感じているさまざまな思い、気持ちを胸に思い浮かべながら着席していました。

皆さんは大学に何を期待していますか。先進分野の研究、尊敬できる師との出会い、また心から信頼しあえる友人との出会い、そして明るく楽しいキャンパスライフ。そのすべてが新潟国際情報大学にはあります。皆さんは今日から本学で4年間の大学生活を送られるわけですが、私は大学生活は自己の判断によって大きく左右されるものと2年間の大学生生活で学びました。大学生活の良し悪しは

皆さん自身の姿勢しだいで決まることを忘れないでください。

私は皆さんに大学生活のなかでぜひ三つのことを身に付けてほしいと思います。第1は先ほども述べましたが、自分自身で考えて物事を判断する能力を身に付けていただきたいということです。大学は社会という嵐の前面にある一時的な静けさのようなもので、大学生活中に自己判断能力を獲得することは、これからの皆さんにとって大きな糧となるでしょう。

第2は豊かな人間性を身につけてもらいたいということです。近年叫ばれているモラルの低下は人間性の欠如によるところが大きいのではないのでしょうか。常に他人を気遣い、思いやり、何事にも素直な人物になってほしいと思います。



違いさまざまな面で自由に決められる事が多いです。自己管理をしつかりして勉学にいいし、み、気晴らしに友達と遊ぶ。これが大学生生活を充実したものにする一番の近道だと思います。

私の抱負

「知る」ことを積極的に学び
自分の可能性を見出す



新入生代表 情報システム学科

山田雅彦

本日は、私たち新入生のためにこのような素晴らしい入学式を挙げていただき、また心のこもったお言葉をいただきありがとうございます。

日本は、日中関係の悪化や、北朝鮮による拉致問題、BSE問題など、世界の国々との間で抱える多くの問題をなかなか解決できずにいます。そのような状況を打破するためには、互いに相手の国を尊重し、そして「知る」ことが必要なのではないでしょうか。

また国内では、IT企業による不正取引事件、建築業者などによる耐震偽装問題、さまざまな交通機関で起こる不祥事や事故、増え続ける子供を狙った凶悪な犯罪、そして、とどまることを知らない個人情報流出などが毎日のようにニュースで流れ、今も問題となっています。これらを防ぐためには、情報をただ知るだけでなく、正しい情報を正しく収集し、正しく運用できる力が求められるので

最後になりましたが、今日皆さんが本学に入学されたことを心から祝い、これからの学校生活が皆さんにとって充実したものになることを願って歓迎の言葉とさせていただきます。

はないでしょうか。

これまでは、授業は与えられたものでしたが、これからは自らが積極的に学び、また課外活動やサークルにも参加し、学外においても社会人としてのルールやモラル、そしてマナーを身につけるなど、本学での4年間にいて有意義な学生生活を送れるよう、しっかりと励んでいきたいと思っています。

最後に、本学で学んでいくにあたり、本学の特徴である充実した設備、また少人数教育という環境において、経験豊かな情熱あふれる先生方からのご指導をいただき、自分のあらゆる可能性を見出し、これからの社会に貢献できるよう惜しまず努力することを誓い、私の入学の抱負とさせていただきます。

(紙面の都合により一部省略しました)

祝電

●新潟県知事

泉田 裕彦

●新潟市長

篠田 昭

●新潟商工会議所会頭

上原 明

●日本私立大学協会会長

大沼 淳

●上越教育大学学長

渡邊 隆

●長岡技術科学大学学長

小島 陽

●長岡大学学長

原 陽一郎

●長岡造形大学学長

鎌田 豊成

●新潟工科大学学長

布村 成具

●新潟産業大学学長

吉田 邦夫

●慶熙大学校国際教育院院長

金 重燮

●ノースウエストミズーリ州立大学学長

デイン・ハバード

●(株)リクルート代表取締役社長

柏木 斉

湧 YUUGEN 源

編集後記に代えて

春の憂鬱

広報委員長 越智 敏夫

入学や転勤など、この時期は生活の中に変化が多い。そのせいか、なんとなく憂鬱である。「春は旅立ちの季節。新しいことにチャレンジすることは良いことだ。すばらしい」と言う人もいるかもしれない。しかしそれは嘘だ。今日と同じ明日が来たほうが、未知の明日より安心できる。だからこの季節に不安になるのは当然である。そして人々は変化を避け、退屈な「日常」を生きていく。

このように日常をつまらないものと否定的に語るようになったのはいつからなのだろう。マックス・ヴェーバーが言うように「聖と俗」の二分法が生活から消え、社会の「合理化」が進んだときからかもしれない。ではその日常に鬱々とするのは個人の責任なのか。革命家やロック・ミュージシャンになれば、私たちはこの退屈さから逃れられるのか。これも嘘である。60年代末、学園闘争のバリケードの中、学生たちは「少年マガジン」を読みふけり、トランプ遊びで退屈をしのいでいた。大金持ちのロッキンローラーにも退屈な日常はある。巨大なリムジンも毎日乗っているには飽きるに決まっている。

しかし革命の日常化について考えることから新たな政治(それが良いものかどうかはさておき)を構想したのは毛沢東だったし、スターの退屈な日常の恐怖を歌ったデビッド・ボウイの音楽は私たちの精神を揺り動かす。変化が嫌だからといって私たちはいつまでも幼稚園の砂場で遊んでいるわけにはいかない。退屈であれば、その退屈さそのものをラジカルに考えることで、この不安と相対するしかない。「面倒な作業だけれど、これも春の憂鬱の醍醐味である。」

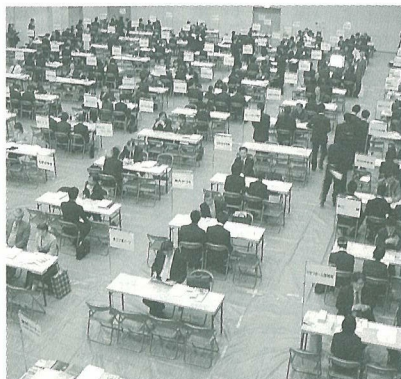
就職活動レポート

景気動向はようやく上昇傾向となってきましたが、大学卒業予定者の採用基準の厳しさは容易には変わりません。就職指導委員会は万全の体制で学生を支援して参ります。

学内合同企業説明会

毎年2月に開催する「学内合同企業説明会」今年も14日(火) 15日(水)の2日間にわたって本学体育館を会場に実施されました。学生たちは、自分の興味ある企業のコーナーに積極的に足を運び、真剣に情報収集を行っていました。

今年も比較的天候に恵まれ、2日間で昨年以上を回る県内外企業166社の人事担当者が出席。会場は学生の熱気に包まれていました。



ずらりとならんだ企業コーナーで真剣に情報収集



平成17年度卒業生 主な就職先一覧

アークベルグループ
アークランドサカモト(株)
アイエスピー・ブレインズ(株)
(株)有沢製作所
(株)アルファライト
(株)伊藤園
(株)ウイング
(株)ウオロク
(株)エイジェック
HLS(株)
(株)SFCG
越後さんとう農業協同組合
越後中央農業協同組合
(株)NS・コンピュータサービス
NDSシステック(株)
(株)エヌ・ティ・エス
エヌ・ユー情報サービス(株)
(株)エフピーエム
(株)エム・アイ・ディジャパン
遠藤商事(株)
大島農機(株)
(株)岡藤商事
(株)川内自動車
蒲原ガス(株)
(株)キタカタ
(株)キタック
北日本物産(株)
キャンノンシステムアンドサポート(株)
協栄信用組合
(株)桐井製作所
銀座美容商会
(株)クラブティ
(株)幸楽苑
コクヨ北陸新潟販売(株)
(株)コメリ
(株)コロナ
サークルK 新潟嘉瀬店
サイバーコム(株)
財務省 関東財務局 (国家Ⅱ種)
(株)佐文工業所

(株)サンビックプライス
(株)サンケイ情報ファシリティ
三晃商事(株)
珊瑚礁(株)
(株)三宝
(株)サンメディア
CEC新潟情報サービス(株)
シェイクハンスグループ
(株)シスプロ
信濃土地(株)
(株)シナプス
新発田ヤクルト販売(株)
(株)ジャパンネット
(株)ジュエリーフオンド
ジュングループ
(株)シリウス
(医)社団 白美会 白根大通病院
(医)新光会
(株)シンコール(株)
(株)真電
シンワ測定(株)
(株)星光堂薬局
セコム上信越(株)
(株)ゼナラルスタッフ
(株)総研システムズ
(株)ソネット
ダイア建設(株)
(株)第一印刷所
(株)大京住宅流通
(株)大光銀行
ダイダン(株)
(株)ダイナム
太平興業(株)
高砂熱学工業(株)
(株)高助
高野ガス(株)
タクトシステムズ(株)
田中税務経理事務所
(株)田村商店
中越運送(株)

鶴木(株)
東光商事(株)
東テック(株)
(株)東北ロイヤルパークホテル
東洋熱工業(株)
東和薬品(株)
(株)トップカルチャー
トヨタカローラ新潟(株)
(株)NaiTO
長岡信用金庫
(株)新潟アール (武蔵園堂 上越店)
新潟運輸(株)
(株)新潟オービックシステムエンジニアリング
(株)新潟クボタ
(株)新潟グランドホテル
新潟県警察
(株)新潟県厚生事業協同公社
新潟県信用組合
新潟県総合生活協同組合
(株)新潟県農協電算センター
新潟総合警備保障(株)
(株)新潟タイハツモーターズ
(株)新潟タキザワ
新潟中央青果(株)
(医)仁愛会 新潟中央病院
新潟トヨタ自動車(株)
(株)新潟トヨペット
新潟日報販売(株)
(株)新潟藤田組
新潟リコー(株)
西川運輸興業(株)
(株)日佑電子
日産プリンス新潟販売(株)
日精サービス(株)
日通商事(株)
日本通運(株)
日本郵政公社
NOVAグループ
(株)ハードオフコーポレーション
(株)パナテック

(株)原信
はるやま商事(株)
萬代電業(株)
(株)BSNアイネット
東日本旅客鉄道(株)
(株)ビット・エイ
(株)ひらせいホームセンター
(株)フエキ農園
富士運輸(株)
(株)藤田製作所
(株)富士通新潟システムズ
(株)PLANT
フランドル(株)
(株)プレスメディア
防衛庁 自衛隊
(株)北越銀行
北星産業(株)
(株)ホテル新潟
(株)堀川
(株)ホンダ産業
(株)本間組
(株)マルイ
丸三証券(株)
丸新産業(株)
(株)マルス
マルソー(株)
(株)マルハン
丸福証券(株)
源川医科器械(株)
モーターニイガタ(株)
山形酸素(株)
(株)吉運堂
(株)ヨドバシカメラ
(株)リオン・ドールコーポレーション
(株)リョーイン
(株)リンコーコーポレーション
(株)レオパレス21

資格取得奨学金授与式

在学中にさまざまな資格試験に挑戦しようという学生たちを、本学では積極的にバックアップしています。資格取得や認定試験などの情報提供はもちろん、大学が指定した各種資格、検定試験に合格した学生に奨学金が給付されます。その奨学金の授与式が、1月13日(金)に行われ、本年度はⅠ種2名、Ⅱ種73名、計75名の学生に対して、武藤学長より奨学金が渡されました。

資格を取得できた皆さん、おめでとうございました！ 他の皆さんも今日からがんばりましょう！！



種別	取得した資格	人数
Ⅰ種	中国語(中国語検定試験)準2級	1名
	ソフトウェア開発技術者(旧1種)	1名
	基本情報技術者(旧2種)	7名
	初級システムアドミニストレータ	18名
	中国語検定 3級	14名
Ⅱ種	日商簿記 2級	4名
	CG検定 2級	1名
	TOEIC 600点	3名
	HSK(国際的に公認されている漢語水準試験) 5~6級	1名
	インターネット検定シングルスター	3名
	秘書技能検定 2級	14名
	建設業経理事務士 2級	6名
	ファイナンシャルプランナー 3級	2名

若い視点で新潟水俣病の教訓を学ぶ

「21世紀のミナマタ」

共に生きる新潟のために」

主催者・アムネスティ・ニュース

および新潟国際情報大学有志

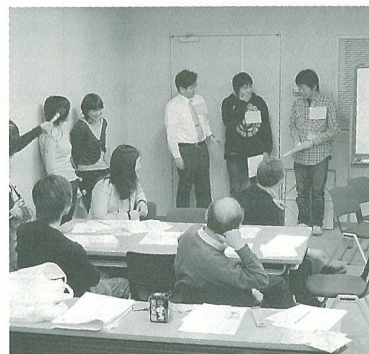
代表・情報文化学科・佐藤孝輔

(05年度卒業)

場所・新潟国際情報大学新潟中央

キャンパス(2月25日)

新潟水俣病は昨年、公式認定から40年を迎えました。これを機に新潟市を中心とする多くのイベントが開催されました。私は現地調査などに参加し、初めて水俣病に内包される複雑な対立関係や、差別、不平等の実態に触れたのです。



エクトを立ち上げました。シンポジウム「21世紀のミナマタ」共に生きる新潟のために」は、その第1回目のイベントです。参加者が患者や役人などになってソーシヤルドラマを演じ、被害者との対話を通じ実態を再認識しました。

それを終えた今、数々の反省点が浮かんでいますが、その中でもやはり、身近な問題を考えることは重要であるということに再認識しています。来年度はこの経験を元に、さらに活動を持続して行きたいと思っています。(佐藤)

親睦を深め勉学に意欲 新入生が合宿研修

恒例の新入生合宿研修が4月7日から3日間、赤塚のウエルサンピア新潟で行われました。両学科のガイダンスや大学生活の規律を理解し、教職員や学友会との懇談やレクリエーションで



和やかにドッジボール

親睦を深めて、早速、勉学とサークル活動に取り組んでいます。

合宿研修の内容は情報センター利用ガイド、コンピュータ演習、先輩の海外研修報告など両学科ごとに行われ、さらに夕食後の教員との懇談会など盛りだくさん。今年のレクリエーションはドッジボールで、教員も参加したクラス別対抗戦で新入生同士の交流がいつそう盛り上がりました。

TOPICS

それは大きな衝撃でした。とりわけ、水俣病の患者さんが暮らす地域では、今もまだ偏見や差別が続いているというお話は、私の中にあった「水俣病はすでに終わった事件である」という認識を、完全に覆してしまいました。

こうした経験から、私は大学の仲間たちと、新潟水俣病を再考するプロジ

市岡政夫前情報文化学部長が死去

ロシアなど 対岸と交流

前情報文化学部長の市岡政夫教授が3月30日、心不全のため新潟市民病院で死去されました。66歳。東京都出身。昨年末、体調を崩され入院治療中でしたが、突然の訃報でした。

市岡先生は早大文学部ロシア語学科を卒業後、1963年に新潟市役所に入庁。70・71年には三菱商事嘱託としてアルメニアに駐在。92年に



卒業生に囲まれて(昨年3月の卒業記念祝賀会で)

新潟市国際文化部長に就任。約30年にわたって同市が独自に取り組んできたロシア極東などとの対岸交流を進め、自治体外交の草分けを担ってきました。94年に同市を退職し、

太陽みたいな”イチチー”の笑顔

第一期卒業生 黒山貴子

本学の教授に迎えられる。2004年に学部長就任。ロシア国立極東

総合大学準教授、環日本海経済研究所所長なども歴任されました。

失礼ながら聞いていた先生には、学生の間で密かに呼ばれる愛称があった。ただ、すべての学生から同じ愛称で呼ばれていたのは市岡先生だけだったかもしれない。

それがご本人の耳に届いた時のこと。

「余談ですが、同じ発音のロシア語には、行く、歩む、事が運ぶ。そんな意味があるんですよ」

そう言う先生は笑ってくださった。

3年生の夏、単身でロシアに行ってみようと思ったのも、豪快な笑い声に背中を押していたのだからだった。ひと夏の間に泣きたいくらい大変なことがたくさんあった。帰国報告の後、やはり先生は大きな声で笑われた。苦しい思い出も、すべてが笑い話へ変わった。

ウラジオストクで出会った友人のついでで、来日するロシア人団体に一週間随行して通訳をやらなうかと声をかけられた。市岡研究室に駆け込むと、先生は直前までこと細かに相談のつてくださった。お決まりの挨拶、観光案内、人々との間に立つ際の自分の立場。でもどんなに準備をしたところで、私に同時通訳ができるはずもなかった。

初日は帰宅後に号泣、2日目の朝には逃亡計画を企てた。惨めで情けなかった。

「なあに、言葉は単なる手段。与えられたチャンスを楽しんでください」

先生の言葉が温かった。その後の残り数日間には楽しかった。本当に楽しかった。

そしてありがたいことに翌年の来日時にも、再び声をかけていただいた。すべての経験が社会へ旅立つ前の私にとって、ほんの少しの自信と勇気へと変わった。

私の露和辞典の表紙裏には、市岡先生のサインとともにロシア詩の一節が書かれている。直訳は「いつもあなたのそばで、太陽が輝いていますように」。

いつからか、私にとつて魔法の呪文となった。先日、お別れの夜にみんなが同じことを口にした。「思い出ず先生の顔ってさ、全部笑顔だよ」

他にもっと怒りたいこともたくさんあったであろう先生にとっては、あまりにも都合の良いすぎる教え子たちであることを大変申し訳なく思っている。でも、私たちには笑顔しか浮かんでこない。私たちは先生の、あの太陽みたいな笑顔だけを覚えていた。そしてそれはこの先もずっとずっと変わらない。

「イチチー」こと市岡先生へ。

最後はお別れの言葉ではなく、心からの感謝を込めて。

「ありがとございました」

新しい学内体制がスタート！

花開き実り多き「みずき野」に

学長 武藤 輝一

開学してから満12年が過ぎ、みずき野校舎前の構内道路に並ぶ桜並木も成長し、見事な花を咲かせるようになりまし。

今春も319人の元氣溢刺とした新入生を迎え、一段と活気に満ちあふれています。しばらく低迷していた日本経済もようやく上昇傾向にあり、本年3月の卒業生の就職率も90%を十分に超えました。これで合計2657名の卒業生が社会へと巣立ち活躍中であり、たくさん就職先企業などからお褒めの言葉を頂戴することが多く、これもうれしなことでありました。

新年度の新しい学内の体制がスタート

情報文化学部長

榎木 公一



少子化の時代を迎え、生き残りをかけて大学ではさまざまな改革が進められています。これらの改革の大部分は、少子化時代でなくても本来やるべきことでありますが、やはり黒船到来のように時間的に待ったなしの状況になってようやく進み始めた感があります。

大学の役割は、学生を一人前の社会人としてさまざまな組織で活躍

学生部長

近藤 進



20年ぶりの大雪も終わり、草木が一斉に芽生える春となりました。雪が解けた後退すると、そのあとから次々と新しい命がわき出てきます。今年入学された皆さん、それぞれ進級された皆さん、気持ちも新たに新しい年度を迎えているこ

全教科・ゼミの新展開を期待

学生諸君には、まず何事も自分自身で考え、自分の意志に基づいて発言し、行動するという自主性、自律性を備え、自らの言動について責任を持つ習慣をつけるよう常々お話ししています。2年次から3年次にかけて行われるキャリア開発教育の第一

教育の質を高め 人材を育成

己点検評価や学生による授業評価を実施してきましたが、今年度も学生による授業評価を継続し、情報システム学科ではJABEE（日本技術者教育認定機構）による外部評価を

アクティブな 学園生活を

います。具体的には学友会・課外活動・紅翔祭・通学・奨学金やアルバイトなどです。何か心配なこと不安なことがありましたら、学生部の先生や学生係に声をかけてください。いろ

歩は、自分自身を十分に認識、理解することから始まります。自分でのような生き方をしようとするのか、どのような職業を選択するのか、考え覚悟しなければなりません。もちろん長い人生ですから時に考えの変わることもあります。しかしその時々、それまでの道を振り返り、さらに進むべき道を決め実行して行くのですから、後日悔いることではないでしょう。

人間誰でも人生の終わりには大なり小なり悔が残るものでしょうが、生きているこの一日一日を大切に過ごそうではありませんか。新年度の大学の諸活動が、それぞれに実り多きものとなりますよう祈念致しております。

受審する予定です。さらに、来年度は情報文化学部として外部評価機関による第三者評価を受審すべく準備を進めてまいります。

さまざまな評価を通して、学部学科のカリキュラムを見直すとともに、個々の授業科目に関しても継続して改善してまいります。本学が育成する人材が本場に社会ニーズに適合しているのかどうかについては、大学の外部に位置する卒業生や関係する組織体、企業の方々の評価が最も有益な評価であると考えます。さまざまな場面において本学に対する忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

いろいろなアドバイスができると思います。また、学生も社会の一員であり、自由もありますが、義務も生じます。基本的なマナーを守ってお互いに気持ちのよい学生生活を送ってください。現在は医療が発達し、どの年齢も死亡率はあまり変わりません。しかし、昭和30年以前は、20歳がもつとも死亡確率が少なく、皆さんの年齢が人生で最も充実した時期であることが分かります。貴重な時間であることに意識して、ぜひアクティブで印象に残る学生生活を送ってください。

「自学自習」の力を付けよう

情報文化学科長 高橋 正樹教授



入学のこのとき、「これから4年間遊べるぞ」と思っている方がもしいたら、水を差すようですが、ちょっと厳しいことを申し上げておきます。

みなさんが生まれた1988年前後、日本はバブル経済の真っ盛りで、卒業すればどこか就職できる状態であり、大学のレジャーランド化が言われていました。ところが18年後の2006年はがらりと変わり、若者の失業率は10%になっており、今後さらに上昇が予想されています。社会に余裕がなくなり、勉強しない学生を受け入れてくれません。

ですから、4年間しっかり勉強してください。そして、何がしかのまとまった知識をつけて欲しい。英語でもロシア語でも結構です。あるいは、国際問題の研究でも結構です。さらに、その過程で「自学自習」の力を身につけてほしい。

教員は、一生みなさんに付いていてあげられません。例えていえば、みなさんに魚を一生やり続けることはできません。必要なことは自分で魚を釣る方法を学ぶことです。その方が卒業後に職場の配置転換で新たな勉強が必要になったとき、一念発起して資格試験に挑戦するとき、あるいは社会的な問題にぶち当たったときなど大いに役に立つはずなんです。そのために、これから4年間と私たち教員がみなさんを待っています。

情報を有効に使うために勉学

情報システム学科長 高木 義和教授



大学が1994年に開学して13年目になります。この間における情報技術の進歩や情報を取りまく環境の変化は非常に激しいものでした。Windows環境の世界標準化、ADSLによるインターネット環境の充実、携帯からのインターネット利用などが代表的なものです。

高校に「情報」科目が導入されて初めての卒業生が今年大学に入学することになります。そのため情報システム学科では従来以上に習熟度に違いが出ることを想定して、1年次から情報処理演習を複数のコースから習熟度に合わせ自由に選択できるようにしました。しかし今年度実施した推薦入学生に対する入学前演習の結果を見ると、情報の学習レベルに大きな変化はないようでした。

情報やパソコンという言葉が身近になってはいますが、情報に関する基本的な理解の程度はこの13年間で思ったほど変化はないのかもしれません。情報システム学科はコンピュータを使いこなすことを目的として行っている学科ではありません。コンピュータを使って人間の情報行動を支える有用な情報システムを作ったり、情報システムを使って経営などに情報を生かしたりすることを学ぶことが目的の学科です。パソコンそのものだけでなく、情報を有効に使うために情報システムについて4年間勉学に取り組むことにしましょう。

2006

情報センター長



情報文化学科教授
区 建英

「知識は、われわれが天に飛翔する翼である」とシエークスピアが述べたように、知識は人類の持つ優れた精神性によって経験や実験の中から得られ、人に計り知れない力をもたらすものである。

長い歴史経験の中で無数の人々が取得した知識は書籍に収められているため、有限な経験しか持たない一人ひとりの私たちは書籍から豊富な知的栄養を吸収することができる。1921年ノーベル文学賞を受賞

知性を培う場に

る要はない。ただ本を読んで深く尋ねる研究心の強い人こそ後生畏るべきものである」と子供たちに教える。読書の価値への共感には西洋でもアジアでも同様である。大学において、授業を通じて知識を学ぶのは重要であるが、自主的に読書をするのも、まさに知性を培う大学生らしい勉強のあり方である。

4月から福岡大学文学部東アジア地域言語学科に赴任し、本学を退職しました。本学には開学した94年から12年間、在職しました。この間、多くの学生、教職員と一緒に楽しく仕事ができました。

本学に感謝したい点が二つあります。第1に、大学教員としての仕事を覚えたことです。教育、研究、校務の三つに従事しながら、次第に大学の仕組みや全体像が見えてきました。授業では韓国語を多くの学生に教え、1期生から10期生（3年のみ）まで計



引き続き半島と交流

前情報文化学科教授 広瀬 貞三

ができたことです。安定した環境の中で、20本を超える論文、翻訳などを発表しました。い

NUIISを去るにあたって

大学は、厳しい時代に入っています。厳しいという意味は、受験者の総数が減っていることだけではありません。学生さんにとってもまた、大学に入って何を身につけるのかが真剣に問われるという意味で厳しい時代でもあります。

最近の傾向として、単位取得を甘くせざるを得ないという話をよく聞きます。これは、おそらく学部側の学生さんにとっても不幸な傾向です。安易な単位取得で、それが標準レベルと思ってしまっ



目標を高く持ち努力を

前情報システム学科助教授 平田 透

それを生かした成果を身につけて卒業する人の少なさです。国立大学よりもはるかに良い情報環境にありながら、コンピュータを徹底的に習

本学の情報センターには、情報関係の設備や体制が整っており、多くの学生に利用されているが、図書館の方も今後、体制と図書の実用化を図っていききたい。より多くの学生や市民が利用されるよう期待している。

平成18-19年度委員長一覧

・学生部長	近藤 進
・情報センター長 (兼)図書セクター長	区 建英
・情報センター 教育研究セクター長	樋口 光明
・学習指導委員長	澤口 晋一
・国際交流委員長	白井陽一郎
・就職指導委員長	岸野 清孝
・セクシュアルハラスメント 対策委員長	近藤 進
・広報委員長	越智 敏夫
・入試実施委員長	山口 直人
・人事委員会委員長	小澤 治子
・紀要編集委員長	竹並 輝之

教員の昇格人事

平成18年4月1日付
教授(情報文化学科)
越智 敏夫、申 銀珠

れ著書の形でまとめるつもりです。

本学への赴任時に小学生2年生、5年生だった子供はそれぞれ社会人、大学1年生になり、家を出ています。このため、妻と二人で新しいスタートを切ります。私はこれから主に福岡県と韓国、北朝鮮との交流拡大に尽力したいと思っています。諸活動の中で、福岡と新潟の新たな出会いがあるかもしれません。本学が開学20周年に向け、さらに飛躍されることを心から期待しています。

熱できない理由の根本的なところは、やはり個人の意欲の有無です。高い目標とそこへ達するための努力は、どんな時代でも必要です。目標を高く持つことは、たとえそこに到達できなくても、現状で妥協するよりはるかに高いレベルに自分を引き上げてくれるからです。そういう実感を持って勉学をする人が、あまりにも減ってきているのではないかと、という危機感を覚えます。NUIISの学生さんには、情報システム能力を使いこなす人材に育つことを望みます。環境は整っているのですから。

(金沢大学へ赴任)

Howard Gordon Brown

CEPインストラクター

担当学科
CEP

専門分野

- 1.Content Teaching
- 2.Extensive Reading
- 3.SelfAccess and Learner Autonomy



経 歴

アーメッド・シムシェック私立学校(中等部・高等部)(1991年9月～1993年8月)
カナダ ハリファックス市 教育委員会勤務(1993年9月～1994年5月)
株式会社ジョスランゲージアカデミー(1994年5月～2001年7月)
ジェイムス英会話学院(2001年8月～2006年3月)

吉田 博

情報システム学科
助教授

担当学科
マーケティング
商品企画

専門分野

- ①地域・地場産業の振興と産官学の連携(地域ブランド戦略、製品企画・情報発信・販売の展開)
- ②非営利組織(行政、福祉、NPO等)のマーケティング
- ③起業・ベンチャービジネス



経 歴

1966年～1972年 三共株式会社
1972年～1987年 住友ビジネスコンサルティング株式会社(現 日本総合研究所)マーケティング事業部長
1987年～2006年 エムアイシー(Marketing Innovation Consulting)代表
2005年～2006年 日本福祉大学情報社会科学部 非常勤講師

吉澤 文寿

情報文化学科
助教授

担当学科
韓国語
日韓関係係論
韓国朝鮮史概説
アジアと日本

専門分野

朝鮮現代史、日朝関係史。主に外交における植民地(支配)責任問題の展開について考察。また、在日朝鮮人の歴史や、現在の分断体制下の朝鮮における植民地主義についても研究課題に。今後、他国の事例と比較しながら、日本と朝鮮における植民地主義及び植民地(支配)責任をめぐる諸問題についても考察。



経 歴

2000年3月～2002年2月 韓国湖南大学校外国語学部日本語科専任講師
2002年10月～2006年3月 東京学芸大学・青山学院大学・関東学院大学・大東文化大学・明星大学非常勤講師

新任教員紹介

高校生はじめどなたでもご参加できます!

OPEN・CAMPUS 2006

オープンキャンパス

1回目 7/23日 2回目 10/1日
10:00~15:30

◎会場 新潟国際情報大学 本校
新潟市みずき野3-1-1 (JR新越後赤塚駅下車 徒歩7分)

学科及びカリキュラム説明
入試情報説明
入試問題の傾向と対策
模擬講義
コンピュータ実習
語学体験
個別入試相談
就職相談
海外留学相談
学生との懇談
学内見学



※変更となる場合もありますので、事前にご確認ください。

参加お申し込み

高校の進路指導の先生、
もしくは右記にお申込みください。

新潟国際情報大学 広報係

〒950-2292 新潟市みずき野3-1-1
TEL.025-239-3111 FAX.025-239-3690
E-mail soudan@nuis.ac.jp

高校生のための

進路ガイダンス

◎開催日 4月29日(土) 10:15~14:10

◎会場 新潟国際情報大学 本校
新潟市みずき野3-1-1 (JR新越後赤塚駅下車 徒歩7分)

>>>スケジュール

9:45~	受付
10:15~11:05	「自分にあった進路選択」 講演「進研プレス」編集長 関 一憲 氏
11:15~12:30	「進路について考えてみよう!!」 パネルディスカッション パネリスト 新潟県教育庁 高等学校教育課企画振興係 指導主事 山賀 淑雄 氏 日本文理高等学校 進路指導部 田中 誠 氏 セコム上信越 株式会社 総務人事部長 阿部 賢一 氏 進研プレス 編集長 関 一憲 氏 新潟国際情報大学 学生部長 近藤 進
12:30~13:10	昼食 (学生食堂で試食ください。無料)
13:10~14:10	「大学ってどんなところ?」 本学学生によるパネルディスカッション

※当日は、学内見学も可能です。

平成19年度 入学者選抜試験概要(要約一覧)

入試区分	募集人員	出願期間	試験日	試験地	試験実施教科・科目	合格者発表日 入学手続き期間
高校長推薦 指定校制 公募制 高校長推薦 スポーツ	情報文化学科 10 情報システム学科 20	30 18年11月1日(水)~ 18年11月7日(火)	18年11月12日(日)	新潟	本学が指定校と定めた高校長あてに推薦依頼を行います。	18年11月16日(木) 18年11月16日(木) 18年11月30日(木)
	情報文化学科 30 情報システム学科 35				面接・小論文 学力推薦要件:全体の評定平均値3.8以上又はいずれか1教科の評定平均値が4.5以上であること。	
	情報文化学科 情報システム学科				面接・小論文 対象科目については、募集要項で確認してください。	
	情報文化学科 情報システム学科				面接・小論文	
	情報文化学科 情報システム学科				面接・小論文	
社会人入試	情報文化学科 情報システム学科	若干名			面接・小論文	
一般入試	前期 情報文化学科 35 情報システム学科 60	95 19年1月9日(火)~ 19年1月22日(月)	19年2月2日(金)	新潟 上越	・国語:国語総合(現代文)・現代文 ・数学:数学Ⅰ・数学Ⅱ (数学Ⅱは、微分・積分を除く) ・外国語:英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択	19年2月7日(水) 19年2月7日(水) 19年2月16日(金)
	入試センター 試験利用 情報文化学科 15 情報システム学科 20				学科試験を課さず、19年度のセンター試験の成績で判定。全教科の中から2教科2科目選択 配点:各教科100点。 (3科目以上受験した場合は高得点の2教科2科目を合否判定に使用)	19年2月23日(金) 19年2月23日(金) 19年3月9日(金)
	後期 情報文化学科 10 情報システム学科 15	25 19年2月16日(金)~ 19年3月2日(金)	19年3月9日(金)	新潟	・国語:国語総合(現代文)・現代文 ・数学:数学Ⅰ・数学Ⅱ (数学Ⅱは、微分・積分を除く) ・外国語:英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択	19年3月13日(火) 19年3月13日(火) 19年3月23日(金)
	情報文化学科 情報システム学科				面接・小論文	
	情報文化学科 情報システム学科				面接・小論文	
	情報文化学科 情報システム学科				面接・小論文	

本学独自の 奨学金制度(給付)

- 学費特別給付奨学金(全学年対象) 授業料全額又は1/2
- 表彰奨学金(2~4年生対象) 10万円
- 海外派遣留学・海外研修奨学金(2年生対象) 15万円~20万円
- 資格取得奨励奨学金(全学年対象) I種5万円、II種2万円
- 学費臨時給付奨学金(全学年対象) 授業料・施設設備費の当該期分全額又は1/2
- 学費奨学融資制度奨学金(3・4年生対象) 借入利息相当額

◎入試と奨学金の詳細については事務局までお問い合わせ下さい。 TEL025-239-3111 E-mail gakumu@nuis.ac.jp

この大学に入ったこと、それがすべてのきっかけだった。この大学で培ったこと、それが僕を成長させ、変えさせた。出会ったすべての人に感謝している。

特に今までの考え方を大きく変えたのは、大学2年のアメリカ留学だ。異国の地で、容姿からもちろん考え方も何もかもが異なる素晴らしい人たちに出会えた。見たこともない満天の星空も全身で感じた。留学が最高だったから大学3年でも再び参加したし、大学4年でも短期でアメリカを訪れてしまった。

なぜ自分が海外に行こうと思ったのか、いまだによくわからない。ただ面白そうだった。信じられない。55

た。一生懸命に勉強しなければ常に使命感と脅迫感にさいなまれて、ガムシやうに勉強をしたのも良い思い出になった。4年間を振り返ると全然勉強が足りない。卒業してからが本当の勉強かもしれない。

55歳で社会人入学をして

情報文化学科 伊藤 桂子

そして邦楽部(琴)を立ち上げ、新潟市役所でのロビーコンサートでの成功は忘れられない出来事。
4年生の2月にはベトナムとカンボジアに佐々木ゼミで同行した。私にとって卒業旅行で、最高に楽しいうれしいうことでした。
大学に入学してから日本育英会の奨学金を得ることができ

アメリカ留学で変わった

情報文化学科 石丸 大志

たから。それが一番の理由だろうと思う。ここから、ノリで動いてもいいという考えが芽生えたといっても過言じゃない。確かに案外かなりの勇気が伴う。実は予定外のハプニングだ。しかし、それを乗り越えればこそ自分にはさらに大きくなる。それに向かう面白さ、ノリで動く大切さもあると知ってしまった今、小さなころはなろうとも思わなかった夢に向かって走り出している自分がある。

ある人から今の自分は漢字で言えば「拓」だと言われ、本当にうれしかった。今思う、自分の名前のように「大志」を抱いてこれからは歩んでいければ、と。

立教大とゼミ合宿で友好

情報文化学科 山澤 真

我々の白井ゼミと立教大学の小川ゼミが、2004年12月11・12日に越後湯沢で合同ゼミ合宿を行った。私はこの合同ゼミ合宿の幹事として、成功に向けて半年間動き回っていた。
合宿では、3つのテーマを双方が調べ、発表し合うこととなった。新潟と東京という地理的問題、お互いの学生同士だれ一人知り合いのいないことなどなど問題が多かった。一番頭を悩ませたのが宿泊施設だった。30人以上が泊まり、ゼミを行う部屋がある施設を探すのはとても困難だった。何とかいくつかの候補を挙げ、直前になって立教大学の

「卒業にあたって」4年間の思い出と今後の抱負

私の大学生活は多くの人と出会えたことで、とても充実した生活になりました。特に印象に残って、大きな影響を受けたと感じるのは、

紅翔祭の運営に参加し充実

情報システム学科 安澤 さやか

1年生のときに紅翔祭実行委員会に入ったことです。もちろん勉強にも力を入れましたが、紅翔祭の準備を通じて多くのことを学ぶことができました。何もかもが初めての経験で新鮮でした。

との貴重な経験の共有でもあり、結束力を深めたのだと思います。学園祭を終えた時はとても充実した達成感を感じることができました。

バレ一部で素晴らしい感動

情報システム学科 小川 麻矢子

学園祭は運営のほとんどを学生が仕切ります。企画を長い時間かけて練り、夏休みも渉外に行くなど、とにかく多くの時間を費やしました。また、その時間は一緒に活動していた仲間

過さるものまね、愚痴の数々、衝撃の事実などなど思い出したとき、いろいろな経験を通して、いろいろなことを考えさせてくれたバレ一部に、みんな、本当に感謝している。私はすごく幸せだ。これから、先輩たちも同じように幸せな気持ちで卒業を迎える日が来ることを祈っている。そしてこれからもバレ一部ですきな思い出をたくさんつくって、楽しんでほしいと思う。

たくさんの出会いで学ぶ

情報システム学科 花岡 諭

大学生活の中で一番の思い出は、たくさんの人と出会えたことです。高校時代までは、人と話すことが苦手、自分の知っている人以外とは、ほとんど話したことはありませんでした。しかし、アルバイトを始めたことや大学での大人数の授業などによって、話す機会がどんどん増え、人と話すことが次第に楽しくなりました。

た。今後、仕事でもプライベートでも多くの人と出会っていく上で、話すことを苦手とせず、たくさんの知識を学んでいきたいと思

平成17年度

卒業式

学長告辞



新潟国際情報大学長
武藤 輝一

“信なくば立たず” 時に思考の転換を

卒業生の皆さんご卒業おめでとう。

この日を迎えられた卒業生の皆さんに、またご父母の皆様に新潟国際情報大学の役員、教職員一同を代表して、心からお祝い申し上げます。また本日ご出席のご父母の皆様には晴れの卒業式でご子弟を目の前にされ、お喜びはいかばかりかとご推察申し上げます。

この度の本学卒業生は情報文化学科120名、情報システム学科167名、合わせて287名であります。このように洗練として、希望と期待に溢れ、前途有為の皆さんを送り出すことができますのは、新潟国際情報大学にとりまして大きな喜び、かつ大きな誇りであります。

4年前の入学式での皆さんの様子を、あらためて新潟国際情報大学広報第15号で拝見しました。覚悟を新たに引き締まった顔、自信ありそうな顔、やや不安そうな顔などいろいろでしたが、本学での4年の学習を完了した今、感慨はいかがでしょう。4年の月日はあっと思う間に過ぎたことでしょうか。本学での学生生活は有意義でしたか、

悔いは残りませんでしたか。回り灯籠の絵のように巡る数々の思い出を胸にしつつ、皆さんは住み慣れた学び舎を後に、実社会へと旅立つことになりました。

社会での職場実務経験についてはインターンシップでの経験だけという人も多いかと思いますが、一抹の不安があるかもしれないが、新しいことへの挑戦ということでもむしろファイトが湧いてくることでしょう。皆さんが一員となる組織には、どのような組織といえども習慣的な思考や活動があり、それも一様ではありません。したがって、最初からすべて皆さんの思い通りに進むわけではないでしょうが、強い覚悟と信念を持ちつつ、他人の提言にも耳を傾け、努力して自らの道をつくり上げてください。

どのような組織にしてもオーケストラのような社会であって、目標に向かって一体感があり、組織そのものに力と責任がある一方で、組織の中の個人に対しては必ずしも寛大ではありません。皆さんは信頼される言行と誠実さによって、それぞれの人間性と能力が評価されるのであります。残念ながら、最近、国内では社会を裏切るような行為がしばしば報道されています。信頼があつてこそ成り立つ人間社会であります。“信なくば立たず”の言葉を皆さんのこれからの箴言の中の一つに加えてほしいのであります。

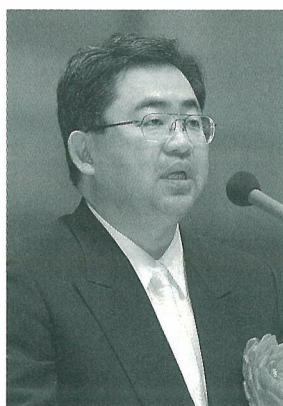
衆知のごとく21世紀に入ってから情報技術の進歩はさらに著しいものですが、遺伝子操作などの生命科学技術の進歩や新しい薬剤の開発などを含め、多くの分野で著明な進歩、開発が見られており、皆さんが勤務する分野も例外ではありません。この迅速な変化に対応しながら活動するためには常に自らの知識や技能の新鮮化をはかり、時に思考の転換をはかることが必要です。これは自分の仕事の漸進的革新にもつな

がります。したがって、卒業後も継続して学習するという、いわゆる“生涯学習”を重く考えずに、人生の伴侶として考え実行してください。

ご存知の本学中央キャンパスでのオープンカレッジも生涯学習の一つであります。例えば、企業の技術系分野で活躍中の社員が、週日の夜間や土曜、日曜日を利用し、大学院ビジネススクールで学んでいる例などはよく見られることです。あるとき、後輩の後塵を拝していることに気がつき、慌てるのではなく、常に自らの知識や技能の増進、開発を心に留め、余裕のある明るい人生を送るようにしましょう。

第9回卒業生の皆さんを加えて、本学創立以来の卒業生は2657名に達します。大変うれしいことです。同じ大学の同級生、先輩、後輩、教職員の人たちとは不思議と容易に喜怒哀楽を共にすることができ、自分の悩みを打ち明け、役立つ示唆をうけることができます。同窓会はこのような機会のきつかけともなります。本学の同窓会

来賓祝辞



セコム上信越株式会社
代表取締役社長 野沢 慎吾

現状を打破する心を持つて

新潟国際情報大学の卒業式にあたり、卒業される皆さんに心からお祝い申し上げます。

国際化、情報化社会に対応する学問を身につけた皆さんの門出に、社会人の先輩の一人として大きな期待をかけ、活躍を祈るばかりであります。

は毎年、本学の中央キャンパスと東京都内で開催されます。勤務多忙のため必ずしも容易ではないでしょうが、ぜひ出席してください。皆さんの社会生活の経験の中から、母校に対する意見や後輩に伝えたいことなどありましたら遠慮なくお知らせください。母校の今後のあり方に役立たせ、後輩の諸君に伝えたいと思います。

新潟県では昨年12月から本年2月にかけて例年になく豪雪と寒さに見舞われました。そして今、雪は消え、暖かい春が訪れつつあります。うれしい季節になりました。“春なのに”という気持ちもするのでしょうか、とうとうお別れの時になりました。桜の花咲く4月には、皆さんは一人の社会人として洗練とした面持ちで新しい勤め専念していることでしょう。これからの人生への希望と期待を胸に大いに活躍してください。皆さんのご卒業を心からお祝い申し上げますと共に、前途に幸多かれと祈り、送る言葉と致します。

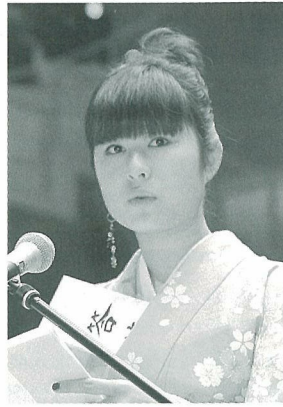
私の会社 セコム上信越株式会社は、今年も今日の卒業式を終えた学生を迎えますが、すでに同じ学窓を巣立った先輩社員は、県や国の壁を越え、グローバルに広がる情報社会の中で、日夜、目標に向かってがんばっています。私は皆さんのこれからの努力とエネルギーの発揮に大きな期待と夢をかけています。私は今日、学窓を巣立つ皆さんに、はなむけとして、二つの言葉を贈ります。

その第1は、常に現状を打破する心を持ち続けることです。私たちを取り巻く実社会には数百年も続いた習慣や常識が残っています。貴重なものもありますが、それが現在、未来の発展への障害になっているものが多いのです。すべての事に關して、これで良いのだからという現状否定と発想の転換が必要で、グローバルに広がる情報社会にとってこのことは無限の可能性を秘めており、現状打破の中にこそ将来の発展がみえてきます。これを忘れないでほしいと思います。

第2は、当たり前のことを当たり前にやる姿勢を身につけてほしいということでありま
す。私はこのことを今年の年頭の辞でも社員
に伝えましたが、簡単なようで非常に難しい
ことです。地道な毎日の行動から新たな発見
も、現状を打破しようとするエネルギーも生
まれてくるのです。それぞれの立場で当たり
前のことを当たり前にやり、自分を燃焼させ
て出す汗の尊さを知ることが、これからの人
生にきつと大きな意味をもたらすこととし
よう。

この2点を、今日、卒業される皆さんへのはなむけの言葉とし、これからの御多幸を心からお祈りいたします。
卒業おめでとうございます。

卒業生答辞



情報文化学科(総代)
新津 厚子

生の源泉で学んだ誇りを胸に 未来に向け新たな現在を創る覚悟

本日は私たち卒業生のために、このような盛大な式を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、来賓の皆様、並びに関係者の皆様におかれましては、県内で多くの式典が重なる3月にこうして足を運んでいただき、ありがとうございました。卒業生を代表して心よりお礼申し上げます。

先に、答辞を述べる前提として、「卒業」ということばの意味について少し触れさせていきたいと思います。一般に、「卒業」といいますと、気安く過去を美化してすべてを水に流す、また、目の前に広がる未来

の光に浮き足立ってそれまであった臭い過去に蓋をするという傾向があるように思います。しかし、アメリカで「卒業」とは終わりと同時に始まりの意味を含む「commencement(コメンセメント)」ということばを用います。したがって、この答辞において私が触れる「卒業」とは、現在をまっさらな状態やゼロに戻すという行為ではなく、それまでの過去を全身にひき受けて、未来に向けて新たな現在をつくりだす覚悟や行為として位置づけたいと思います。どうぞご理解ください。

次に、「卒業」という言葉の意味から派生して、9期卒業生として、原点を忘れぬため、本学園の歴史に立ち戻ってみます。

本大学は、1994年、日本で初の「情報文化」学部を備え開学しました。郷土を愛する創設者、小澤辰男副理事長、現学院長は「新潟で平和と民主主義を考える」という熱い理念を胸に、新潟県、新潟市など産・学・官・民の協力を得て運動を進めました。

当時、大学の基本構想は、内山秀夫初代学長、浦昭二初代学部長、第二代石川真澄学部長の3先生らが、まるで三銃士の心意気で、日夜議論を交わしながら熟考したといえます。ご存知のように「国際・情報」は、本学の広報誌として保護者、関係者および卒業生に配布されているものです。その記念すべき第1号から目を通すと、今も古びず生きた眼を持つ3先生の姿と、新たに生まれた「情報文化学部」に対するそれぞれの並々ならぬ思いを知ることができます。3先生のことばを読むたびに、私は、彼らが明らかに「知」に魅せられた一流の情報文化人であったことを痛感し、畏敬の念を覚えざるをえません。

一つ参考に掲げるならば、浦昭二先生は、新潟国際情報大学10年史のなかで、本学こそを好奇心を大切にしたい「生の源泉」の学園にしたいと語っておられました。

さて現在、本学がかつて浦先生が描いた「生の源泉」であるかと問われれば、4年間を終えようとする今も、私にはその意思に応じる自信はありません。

このように、大学という一つの公共空間は、

学生はもちろん、教員、職員もまた時ととも
に流れ入れ替わり、年々その色を変えていく
ものです。現在は29号に至る「国際・情報」
を読めば、いまだ僅かな歴史のなかでも、確
実に我が校、我が学部が変化していることを
実感できます。

卒業を迎えたこの場で、今後移り変わる
新潟国際情報大学の学風に対し、正直な気持
ちを打ち明ければ、そこには大きな期待と同
時に、不安と寂しさを感じざるをえません。
個人差はありますが、少なくとも私にとって
大学4年間という時間、空間は、あまりに衝
撃的で、そのほとんどが入学時の想像を大き
く超えるものでした。だからこそ今、この場
この時から立ち去るということは「寂しい」
気持ちを通り超し、実のところうまく実感で
きていないほどです。

しかし同時に、私は今後、社会で自らを新
潟国際情報大学9期目卒業生として語ること
に大きな誇りを持っています。新潟市の片田
舎、みずき野において日本初の情報文化学部

に属し、4年間、さまざまな分野から「情報」
を「文化」に創造し、「文化」を「情報」の
文脈から読み解いた一つの応用学問を学んだ
ことは、実に私個人への「生の源泉」となり
ました。既に過ぎた4年間に戻ることはでき
ませんから、これからは別のフィールドから
加速する大学市場社会のなか、なお、本学か
ら好奇心に満ちた多くの学生、教職員による
隆々とした学風が生まれるよう、多方面から
支えていきたいと思っています。

終わりを嫌い、だからと長くなりました
が、最後に4年間計り知れぬほどのご指導、
ご鞭撻を頂いた教職員の皆様、支え続けてく
ださった家族、親戚、そして大学で出会えた
すべての方々、仲間感謝致します。

開学の理念から引用し、若干大きな言葉で
すが、春を待つ雪国のようにひたむきに、い
つか新潟で真の平和と民主主義が実ることを
祈って、私の答辞とさせていただきます。

(紙面の都合により一部省略しました)

来賓名簿

(株)ウオロク	取締役人事部長	高橋 清二
セコム上信越(株)	代表取締役	野沢 慎吾
(株)総研システムズ	総務部長	清水 保
ダイダン(株)	常務取締役	児玉 貞雄
高砂熱学工業(株)	常務取締役業務本部長	岡本 保彦
鶴木(株)	総務部長	天野 敬作
東洋熱工業(株)	統括部長	関口 建之
(株)新潟クボタ	取締役総務部長	山宮 規男
新潟総合警備保障(株)	執行役員	北村 栄一
新潟リコー(株)	管理部 部長	小黒 亘
防衛庁 自衛隊新潟地方連絡部	新潟募集案内所長	松田 心司
(株)マルイ	人事部 次長	貫 龍太郎
源川医科器械(株)	代表取締役社長	源川 海雄

祝電

●文部科学大臣	小坂 憲次
●新潟県知事	泉田 裕彦
●新潟市長	篠田 昭
●新潟商工会議所会頭	上原 明
●日本私立大学協会会長	大沼 淳
●上越教育大学学長	渡邊 隆
●長岡技術科学大学学長	小島 陽
●敬和学園大学学長	新井 明
●長岡大学学長	原 陽一郎
●長岡造形大学学長	鎌田 豊成
●新潟工科大学学長	布村 成具
●新潟産業大学学長	吉田 邦夫
●新潟青陵大学学長	関 昭一
●新潟総合警備保障(株)	
代表取締役社長	廣田 幹人
●新潟中央青果(株)	
代表取締役社長	田村 正治
●(株)リオン・ドールコーポレーション	
代表取締役社長	小池 信介

平成17年度 卒業生おめでとう

晴れやかに287人の門出を祝う

平成17年度第9回卒業式が3月23日、新潟市民芸術文化会館（りゅーとびあ）のコンサートホールで行われ、287人（情報文化学科120人・情報システム学科167人）の卒業生が決意新たに社会に巣立って行きました。

学位記を授与したあと武藤輝一学長は「新しいことへの挑戦にファイトを湧かせ、強い覚悟と信念を持って自らの道をつくり上げてください」と告辞。また、小澤辰男学院長が開学の由来をあらためて紹介し、環日本海・国際化時代に通じる語学と情報教育の継続を希望しながら「世界に通じる社会人として頑張ってください」と激励しました。

これに対し、卒業生を代表して情報文化学科の新津厚子さんが「私たちは未来に向けて新たな現実を創り出す覚悟でいます。国際情報という開

学の理念と応用学問を学ぶことができた学園と、計り知れぬほどの支援をしていただいた多くの方々に感謝しています」と万感を込めて答辞を述べました。

最後に吹奏楽部の演奏で校歌「空がある風がある光がある」を卒業生と一緒に教職員、来賓や父兄の方々も斉唱し、全員が大きな拍手で前途を激励して記念式典を終りました。

同日夕には恒例の卒業記念祝賀会がホテル新潟で開かれました。晴れやかなスーツやドレス姿の卒業生たちは教職員を取り囲み別れを惜しみ、同僚と夢を語り合ったり激励し合ったりして、門出を祝う華やかなパーティーがいつまでも続きました。



本学の卒業生はこれで合計2,657人となりました

平成17年度（第9回）299人（情報文化121人・情報システム178人）
平成16年度（第8回）294人（情報文化115人・情報システム179人）
平成15年度（第7回）314人（情報文化118人・情報システム196人）
平成14年度（第6回）277人（情報文化111人・情報システム166人）
平成13年度（第5回）291人（情報文化118人・情報システム173人）
平成12年度（第4回）294人（情報文化114人・情報システム180人）
平成11年度（第3回）303人（情報文化126人・情報システム177人）
平成10年度（第2回）290人（情報文化124人・情報システム166人）
平成 9年度（第1回）295人（情報文化116人・情報システム179人）

※9月卒業生含む

平成17年度 卒業生特別表彰

学長賞

（学業成績優秀者）

情報文化学科（総代）

新津 厚子

情報システム学科

斉藤 正信

学術賞

情報文化学科

樋浦 千鶴

平成16年度に英検準1級、TOEIC 775点取得。平成17年度には学生デビューコンテスト最優秀賞を受賞するなど、本学の英語教育の成果を示した。

情報文化学科

眞野 亜矢子

平成17年中国語検定試験準2級に合格し、課外活動でも中国文化研究会に所属し、本学学生と新潟在住中国人留学生との交流活動の組織や異文化理解の活動に尽力した。

課外活動賞

情報システム学科

木村 一貴

平成16年度に第52回中部学生バドミントン選手権大会（団体）で準優勝し、第55回秩父宮・秩父宮妃杯争奪全日本学生バドミントン選手権大会（団体）に出場した。翌年の平成17年度にも第53回中部学生バドミントン選手権大会で団体戦ベスト4に勝ち進んだメンバーとして活躍した。

また、木村 川上は、個人戦でも平成16年第55回・平成17年56回秩父宮・秩父宮妃杯争奪全日本学生バドミントン選手権大会にダブルスで連続出場をはたした。

陸上競技部

情報文化学科

小林 利也

情報システム学科

武田 喜雄

平成14年度第86回・平成15年度第87回日本陸上競技選手権リレー競技大会4×400Mリレーに出場した。